

—平成24・25・26年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2016年3月

兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会



—平成24・25・26年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2016年3月
兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

あ い さ つ

埋蔵文化財は、地域の歴史と文化に根ざした、かけがえのない歴史的遺産です。発掘調査で出土した遺構や遺物は、長い年月を越えて、現在のわたしたちに当時の暮らしを語りかけてくれます。平成24・25・26年度に、福岡町で実施した試掘、確認調査では、弥生時代から中世の遺構や遺物が見つかり、町の歴史の一端がさらに明らかになりました。

このたび、3年間の発掘調査の結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。地域の歴史を知る資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

福岡町教育委員会
教育長 高寄十郎

例 言

1. 本書は、平成24・25・26年度に行った試掘、確認調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は、福岡町教育委員会が主体となり実施した。
3. 経費は、国庫補助金（総事業費の1/2）並びに県補助金（総事業費の1/4）を使用している。
4. 各年度の調査体制は、以下のとおりである。

平成24年度

平成25・26年度

調査・管理事務局

教育長 高寄十郎

社会教育課長 山下健介

社会教育課長 福永知美

文化財専門員 上野健一郎

調査員 出田 直

教育長 高寄十郎

社会教育課長 山下健介

社会教育課長 福永知美

社会教育課主事 樋口 碧

調査員 出田 直(平成25年度)

整理作業・報告書担当

文化財専門員 上野健一郎(平成24年度)

社会教育課主事 樋口 碧(平成25・26年度)

整理作業員 梶 智美

5. 本書に使用した方位は、基本的に磁北を示している。
6. 本書に掲載した図のうち、遺跡位置図は福岡町発行の都市計画図（1/10,000）を編集、調査区配置図は福岡町発行の福岡町都市計画図（1/2,500）を縮小、編集したものである。
7. 本書の執筆は樋口・出田が行い、編集は福永・梶が行った。
8. 遺構・遺物の実測、写真撮影は、樋口・上野・出田が行った。
遺物の洗浄・接合・復元・トレース、遺構のトレース等は、梶の協力を得た。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福岡町教育委員会にて保管している。
10. 調査及び整理作業には、数多くの方々や機関にご指導、ご助言をいただいた。感謝申し上げます。

目次

あいさつ、例言

目次、図・表目次、写真目次

埋蔵文化財調査一覧（平成24年度・平成25年度・平成26年度）

平成24年度

1 南田原条里遺構（第17次）	1
2 南田原条里遺構（第18次）	4
3 福井谷遺跡（第3次）	12

平成25年度

4 南田原条里遺構（第21次）	13
5 西田原辻ノ前遺跡（第2次）	15
6 南田原条里遺構（第22次）	19
7 南田原福川遺跡（第5次）	25
8 福田地区（東田黒）	26

平成26年度

9 西広畑遺跡（第3次）	29
10 南田原条里遺構（第24次）	30
11 県指定文化財 石造五重塔基壇部下調査	35
12 南田原条里遺構（第25次）	39

図・表目次

平成24年度

1 南田原条里遺構（第17次）	
図1 調査場所位置図	1
図2 調査区配置図	2
図3 土層図	2
図4 土層図	3
2 南田原条里遺構（第18次）	
図5 調査場所位置図	4
図6 調査区配置図	4
図7 土層図	8
図8 土層図	9
図9 土層図	10
図10 土層図	11
図11 出土遺物実測図	11
表1 出土遺物観察表	11
3 福井谷遺跡（第3次）	
図12 調査場所位置図	12
図13 調査区配置図	12
図14 土層図	12

平成25年度

4 南田原条里遺構（第21次）	
図15 調査場所位置図	13
図16 調査区配置図	13
図17 土層図	14
図18 出土遺物実測図	14
表2 出土遺物観察表	14
5 西田原辻ノ前遺跡（第2次）	
図19 調査場所位置図	15
図20 調査区配置図	15
図21 土層図	17
図22 出土遺物実測図	18
表3 出土遺物観察表	18
6 南田原条里遺構（第22次）	
図23 調査場所位置図	19
図24 調査区配置図	19
図25 土層図	21
図26 土層図	22
図27 土層図	23

図 2 8 出土遺物実測図……………	2 4	1 0 南田原条里遺構 (第 2 4 次)	
表 4 出土遺物観察表……………	2 4	図 3 8 調査場所位置図……………	3 0
7 南田原桶川遺跡 (第 5 次)		図 3 9 調査区配置図……………	3 0
図 2 9 調査場所位置図……………	2 5	図 4 0 土層図……………	3 3
図 3 0 調査区配置図……………	2 5	図 4 1 土層図……………	3 4
図 3 1 土層図……………	2 5	1 1 県指定文化財 石造五重塔基壇部下調査	
8 福田地区 (東田黒)		図 4 2 調査場所位置図……………	3 5
図 3 2 調査場所位置図……………	2 6	図 4 3 調査区配置図……………	3 5
図 3 3 調査区配置図……………	2 6	図 4 4 平面図・土層図……………	3 7
図 3 4 土層図……………	2 8	図 4 5 石造五重塔実測図……………	3 8
平成 2 6 年度		1 2 南田原条里遺構 (第 2 5 次)	
9 西広畑遺跡 (第 3 次)		図 4 6 調査場所位置図……………	3 9
図 3 5 調査場所位置図……………	2 9	図 4 7 調査区配置図……………	3 9
図 3 6 調査区配置図……………	2 9	図 4 8 土層図……………	4 0
図 3 7 土層図……………	2 9		

写真目次

写真図版 1 南田原条里遺構 (第 1 7 次)	写真図版 1 6 南田原条里遺構 (第 2 2 次)
写真図版 2 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 1 7 南田原桶川遺跡 (第 5 次)
写真図版 3 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 1 8 福田地区 (東田黒)
写真図版 4 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 1 9 福田地区 (東田黒)
写真図版 5 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 2 0 西広畑遺跡 (第 3 次)
写真図版 6 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 2 1 南田原条里遺構 (第 2 4 次)
写真図版 7 南田原条里遺構 (第 1 8 次)	写真図版 2 2 南田原条里遺構 (第 2 4 次)
写真図版 8 福井谷遺跡 (第 3 次)	写真図版 2 3 南田原条里遺構 (第 2 4 次)
写真図版 9 南田原条里遺構 (第 2 1 次)	写真図版 2 4 南田原条里遺構 (第 2 4 次)
写真図版 1 0 南田原条里遺構 (第 2 1 次)	写真図版 2 5 県指定文化財 石造五重塔基壇部
写真図版 1 1 西田原辻ノ前遺跡 (第 2 次)	下調査
写真図版 1 2 西田原辻ノ前遺跡 (第 2 次)	写真図版 2 6 南田原条里遺構 (第 2 5 次)
写真図版 1 3 南田原条里遺構 (第 2 2 次)	写真図版 2 7 南田原条里遺構 (第 2 5 次)
写真図版 1 4 南田原条里遺構 (第 2 2 次)	
写真図版 1 5 南田原条里遺構 (第 2 2 次)	

平成24年度 埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	要因	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
1 南田原糸里遺構 (第17次)	神奈川県福岡町南田原字 岸ノ上2255番地1 ほか	確認調査	2012年 6月30日 ～ 7月8日	中世	遺物包含層	土師器 須恵器 木片	10か所 40㎡
2 南田原糸里遺構 (第18次)	神奈川県福岡町南田原字 川田2928番地1 ほか	確認調査	2012年 8月17日 ～ 8月24日	弥生時代 ・中世	暗渠 遺物包含層	弥生土器 土師器 須恵器 木片	39か所 156㎡
3 福井谷遺跡 (第3次)	神奈川県福岡町八千種字 福井谷1462番地	確認調査	2012年 8月30日	—	なし	なし	1か所 1.2㎡

平成25年度 埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	要因	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
4 南田原糸里遺構 (第21次)	神奈川県福岡町南田原字 ハツグロ2970番地 1	確認調査	2013年 8月 5日、6日	弥生時代	柱穴 溝状遺構 遺物包含層	弥生土器	3か所 18㎡
5 西田原辻ノ前 遺跡(第2次)	神奈川県福岡町西田原字 辻ノ前1629番地5 ほか	試掘・ 確認調査	2013年 8月 6日、8日	奈良時代 ・中世	ビット状遺構	土師器 須恵器 陶器	5か所 30㎡
6 南田原糸里遺構 (第22次)	神奈川県福岡町南田原字 川田2903番地1 ほか	確認調査	2013年 11月26日、 28日、29日	奈良時代	ビット状遺構 柱穴 溝状遺構	土師器 須恵器	18か所 72㎡
7 南田原桶川遺跡 (第5次)	神奈川県福岡町南田原字 桶川3144番地1	確認調査	2014年 1月16日	—	なし	なし	1か所 9㎡
8 福田地区 (東田黒)	神奈川県福岡町福田字東 田黒153番地ほか	試掘調査	2014年 1月 16日、17日	—	なし	土器片	6か所 24㎡

平成26年度 埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	要因	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
9 西広畑遺跡 (第3次)	神奈川県福岡町西田原字 西広畑669番地5	確認調査	2014年 4月3日	中世	遺物包含層	土師器 須恵器	1か所 2.2㎡
10 南田原糸里遺構 (第24次)	神奈川県福岡町南田原字 中島762番地1ほか	確認調査	2014年 6月17日、 19日、20日	その他	柱穴 溝状遺構	なし	15か所 60㎡
11 石造五重塔	神奈川県福岡町西田原字 小谷752番地	保存目的 調査	2014年 9月 9日、10日	中世・近世	—	土師器 須恵器 陶器 寛永通宝	1か所 1㎡
12 南田原糸里遺構 (第25次)	神奈川県福岡町南田原字 東田2223番地1	確認調査	2014年 10月8日	—	なし	土師器 須恵器	4か所 16㎡

平成24年度

1 南田原条里遺構 (第17次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字岸ノ上

2255番地1ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 上野健一朗 出田直

調査期間 平成24年6月30日(土)～
7月8日(日)



図1 調査場所位置図

○調査に至る経緯

宅地造成及び店舗新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、基本的に水田であり、一部過去の造成工事により盛土が施され、雑種地の状況を呈していた。一部竹を植林したことにより、竹林化していた。

調査区は、旧の地形を基準に、合計10か所を設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川が作った低位氾濫原および高位氾濫原と位置付けられる部分にある。

平成20年度に実施した第10次調査では、弥生土器片や石包丁等、中世の遺物も少量確認された。また、弥生時代中期の溝状遺構が確認されていることから、当遺構の南側に集落跡の存在を示唆している。

○調査区の概要

基本的に、耕作土、床土、埋土、地山からなる。地山は低位氾濫原においては砂礫層、高位氾濫原においては黄色系粘質土層によって構成される。

調査区1

耕作土とその直下には床土が確認されている。埋土は灰色系の粘土ないし粘質土からなり、最下層に土師器片を含む遺物包含層が確認された。遺物は、土師器の皿と考えられる土器片が少量出土した。

調査区2

耕作土、床土、埋土、黄色系地山からなる。床土からは、土師器片や須恵器片が出土したが、2次的な移動によるものと考えられる。

埋土中の暗灰褐色土層から須恵器片が少量出土しているが、遺構は確認されなかった。

調査区3

調査区2とほぼ同様の層序を示すが、埋土には暗灰茶褐色土層や暗灰茶色土層がみられる。床土から土師器片や須恵器片が少量出土したが、2次的移動によるものと考えられる。

調査区4

他の水田の耕作土に該当する部分から約80cmの盛土が施されている。下層に耕作土が確認されたが、顕著なかたちでの床土はみられなかった。耕作土直下には、暗灰茶褐色土層がみられ、上

部から須恵器片の出土があった。

調査区 5

既造成地で、約80cmの盛土が施されている。盛土直下には、耕作土と考えられる土層が確認された。耕作土直下には新しい時代のもと考えられる暗渠があり、調査時にも多量の水を排出する状況が確認された。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 6

旧耕作土と考えられる土層と床土が確認された。暗灰色粘土層からは、須恵器片と土師器片の出土があった。さらに、炭および燃えた痕跡のある木製品1点の出土があった。遺物包含層が確認された。

調査区 7

耕作土と床土の下層に深さ13cmの溝状遺構が確認された。溝状遺構からは、土師器片が出土した。

調査区 8

耕作土、床土、暗灰色粘質土層、暗灰褐色粘質土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 9

既造成地で、耕作土面から約80cmの盛土が施されている。耕作土直下に暗渠があり、水量が多く、周辺の状況から、地山面までの掘削は行わなかった。

調査区 10

既造成地で、耕作土面から約70cmの盛土が施されている。遺物、遺構ともに確認されなかった。

〇まとめ

低位氾濫原や高位氾濫原から地山面には、礫層が顕著に確認されるものと想定していたが、高位氾濫原にあたる場所は、黄色系の粘質土の地山面がみられた。調査区7からは、溝状遺構が確認されたが、深さは13cmと比較的浅く、遺物も1点のみで、自然流土的な性格のもと考えられる。遺物は全体的に希薄であるが、周辺の遺跡密度に示唆を与えるものである。特に高位氾濫原と位置付けられる場所からは、近年においても弥生時代の集落や、中世寺院の関連遺跡も確認されており、高位氾濫原における遺跡のあり方を考える上で貴重な情報を得ることができた。遺物包含層が工事により一部影響を受けるため、調査区2周辺および防火水槽設置箇所については工事立会、その他については慎重工事で対応した。

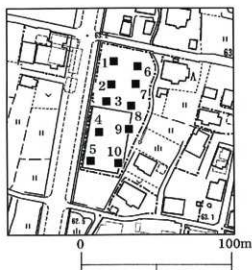


図2 調査区配置図

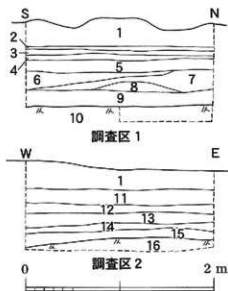
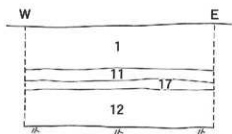
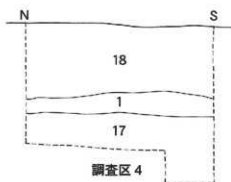


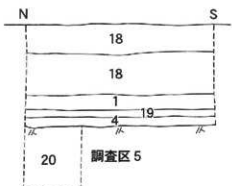
図3 土層図



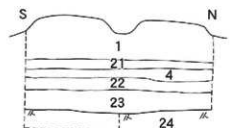
調査区 3



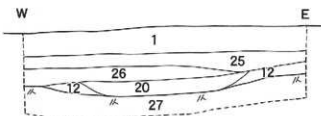
調査区 4



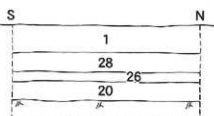
調査区 5



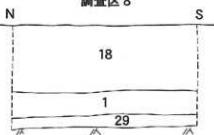
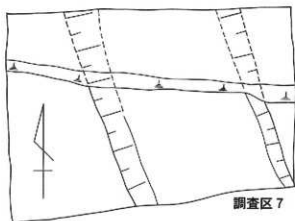
調査区 6



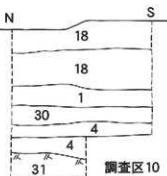
調査区 7



調査区 8



調査区 9



調査区 10

- | | | |
|---------------|---------------|-----------------|
| 1. 耕作土 | 11. 暗茶灰色土(床土) | 21. 暗灰色土(旧耕作土) |
| 2. 茶灰色土(床土) | 12. 暗灰茶色土 | 22. 暗黄灰色土(床土) |
| 3. 茶褐色土(旧耕作土) | 13. 暗灰褐色土 | 23. 暗灰色粘土 |
| 4. 暗茶灰色土 | 14. 暗茶灰色粘質土 | 24. 茶色砂礫層 |
| 5. 黄茶色粘土 | 15. 暗灰茶色粘質土 | 25. 暗黄灰色粘質土(床土) |
| 6. 灰色粘土 | 16. 暗黄土(地山) | 26. 暗灰色粘質土 |
| 7. 灰茶色粘土 | 17. 暗灰茶褐色土 | 27. 黄茶色砂礫層 |
| 8. 灰色砂層 | 18. 壺土 | 28. 暗黄茶色粘質土(床土) |
| 9. 灰茶色粘土 | 19. 暗灰色土(床土) | 29. 暗溝面 |
| 10. 黄色粘土 | 20. 暗灰褐色粘質土 | 30. 暗茶褐色土 |
| | | 31. 灰茶色礫層 |



図4 土層図

2 南田原条里遺構 (第18次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田

2928番地1ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 上野健一朗 出田 直

調査期間 平成24年8月17日(金)～

8月24日(金)

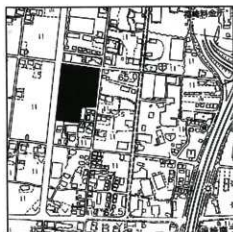


図5 調査場所位置図

○調査に至る経緯

店舗新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、基本的に水田であり、一部過去の造成工事により盛土が施され、資材置き場や駐車場として利用されていた。

調査区は、旧の地形を基準に、合計42か所設定したが、現地状況と周辺の調査状況により調査区20、21、22は欠番とし、実際の調査は39か所で実施した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川が作った低位氾濫原および高位氾濫原と位置付けられる部分にある。

南田原条里遺構に該当する場所であり、当該地南側からは、平成20年度に実施した第10次調査で、弥生時代の溝状遺構やピット状遺構に伴う遺物が確認されている。

○調査区の概要

基本的に、耕作土、床土、埋土、地山からなり、地山は低位氾濫原においては砂礫層または粘土層、低位氾濫原と区分されている中でも微高地においては黄色系粘質土層によって構成される。

調査区1

既造成地で、盛土が90cm施され、その下に耕作土と床土が確認されている。埋土は黄灰色土層で地山は黒褐色粘土層、直径10cmの石を少量含む暗灰砂層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区2

既造成地で、床土下層に約10cmの石で構成される暗渠が確認された。埋土は黄灰色土層、灰色土層からなり、旧の耕作土と床土と考えられる。地山は粘質の灰色土層である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区3

既造成地で、盛土、耕作土、床土、地山からなる。下層の灰色土層は旧耕作土、暗灰黄色土層は旧床土と考えられるが、他の床土が2～5cmであるのに対して約60cmと他の床土よりも厚いのが

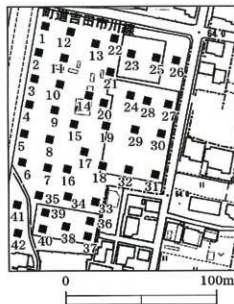


図6 調査区配置図

特徴である。地山は黒褐色粘土層、暗灰黄色粘土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 4

既造成地で、旧の水田の端部分に該当すると考えられ、耕作土が南部分でなくなっているところがある。埋土は灰色土層、地山は暗灰黄色土層で構成される。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 5

現況は水田となっている場所であり、耕作土と床土が確認され、直下に直径5～10cmの礫を含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 6

耕作土と床土の間に直径5cm程度の礫で構成される暗渠が確認された。埋土はオリーブ褐色土層やにぶい黄色土層等で構成される。一部ピット状のものが断面で確認されたが、遺構とは認められなかった。地山は黒褐色土層である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 7

耕作土と床土の直下に黒褐色土層の地山が広がる。床土から須恵器片が1点出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 8

耕作土と床土の直下に直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山が広がる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 9

既造成地で、盛土、耕作土、床土からなり、埋土は暗オリーブ褐色土層、地山は暗灰黄色粗砂層で直径5～20cmの礫を多量に含む。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 10

既造成地で、盛土、耕作土、床土があり、埋土はオリーブ黒色土層である。地山は灰オリーブ色土層となる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 11

既造成地で、盛土、耕作土、床土があり、埋土は黄灰色土層で構成され、地山は黒褐色粘質土層となる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 12

既造成地で、盛土、耕作土、床土があり、埋土は黄灰色土層で構成され、地山は灰白色粘質土層となる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 13

既造成地で、盛土、耕作土、床土があり、埋土は黄灰色土層となる。下層は鉄分を含む土色の違いが明瞭で、黄灰色土層が旧耕作土の可能性を示し、地山は黒褐色粘土層となっている。床土から須恵器片が1点出土し、黄灰色土層からは、焼け跡のある木片が1点出土した。遺構は確認されなかった。

調査区 14

既造成地で、盛土、耕作土、床土、直径2～10cm程度の礫を少量含む暗オリーブ褐色土層の地山からなる。床土と考えられる黄褐色土層から須恵器片1点と土師器片2点が出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 15

現況は水田となっている場所であり、耕作土、床土となり、直下に直径5～10cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山となる。床土から須恵器片（山茶碗）2点と土師器片1点が出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 1 6

調査区 1 5 と同様である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 1 7

調査区 1 6 と同様である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 1 8

調査区 1 7 と同様である。地山は直径 5 ～ 2 0 cm の礫を多量に含む黒褐色土層である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 1 9

調査区 1 8 と同様である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 2 0 欠番 現状と周辺調査区の状況から調査しなかった。

調査区 2 1 欠番 現状と周辺調査区の状況から調査しなかった。

調査区 2 2 欠番 現状と周辺調査区の状況から調査しなかった。

調査区 2 3

既造成地で、盛土、耕作土、床土からなり、地山は、オリーブ褐色土層を基本とする。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 2 4

既造成地で、盛土、耕作土、床土は調査区 2 3 と同様で、地山は直径 5 ～ 1 0 cm の礫を多量に含む黒褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 2 5

耕作土直下には下水道工事の際に敷設された盛土の一部がみられた。床土の下層には旧耕作土と旧床土があり、埋土は黄灰色土層となっている。地山は暗灰黄色土層を基本とし、灰色シルトがある。旧耕作土から須恵器片が 1 点出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 2 6

耕作土、床土、埋土（にぶい黄色土層）からなり、地山は黒褐色土層及び黒色シルトとなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区 2 7

耕作土、床土とその下層に旧耕作土と旧床土がある。埋土は黒褐色土層であり、地山は粘質土層、シルトを基本とする。床土から須恵器片が 1 点出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 2 8

耕作土直下には下水道工事に敷設された土層の堆積が確認された。床土下層には、旧耕作土、旧床土がみられ、床土から須恵器片が 1 点出土したが、遺構は確認されなかった。

調査区 2 9

耕作土、床土とあり、その下層に黒褐色土層の遺物包含層と考えられる堆積がみられた。遺物の出土も他の調査区と比べると顕著であり、土師器片 1 0 点、須恵器片 1 点、弥生土器片 1 点が出土した。地山は黄褐色土層で、低位氾濫原中の微高地を構成する地山の堆積となっている。

調査区 3 0

耕作土、床土があり、直下に黒褐色土層の遺物包含層が確認された。弥生土器片と考えられる土器片が 2 点出土した。

調査区 3 1

耕作土、床土があり、直下に黒褐色土層の遺物包含層が確認された。須恵器片 2 点と土師器片 6 点が出土した。

調査区 3 2

耕作土、床土があり、直下に黒褐色土層の遺物包含層が確認された。土師器片 3 点が出土した。

調査区33

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区34

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区35

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区36

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区37

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区38

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区39

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区40

耕作土、床土の直下には直径5～20cmの礫を多量に含む黒褐色土層の地山がある。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区41

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土があり、旧床土の下層はマンガンを含む堆積層があった。埋土には茶灰色や黄色系の土層が堆積し、地山は直径10～50cmの礫を多量に含む黒褐色土層である。床土から須恵器片1点、旧床土から土師器片1点の出土があったが、遺構は確認されなかった。

調査区42

耕作土、床土があり、埋土も茶灰色や黄色系の土層が堆積し、地山は暗灰黄色粘土層である。床土から土師器片が1点出土したが、遺構は確認されなかった。

〇まとめ

低位氾濫原に位置付けられるため、礫層が顕著に確認されるものと想定していたが、低位氾濫原の地山のあり方においても、礫が多くみられる土層と粘土系の堆積、黄色系土層の堆積に分かれることが確認された。

遺物は、2次的な移動と考えられる床土からの出土があり、中世の遺物を中心としていることは、他の調査年次のあり方と共通するところが大きい。一方、遺物包含層について、弥生時代から中世にかけての遺物が混じっており、中世以降の堆積とすることが可能という点と周辺に弥生時代から中世にかけての遺構の広がりを示唆するという点で、意義あるものとなった。遺物包含層の一部が、工事により影響を受けることが分かったため、基礎部分や擁壁部分の掘削時に、工事立会にて対応した。

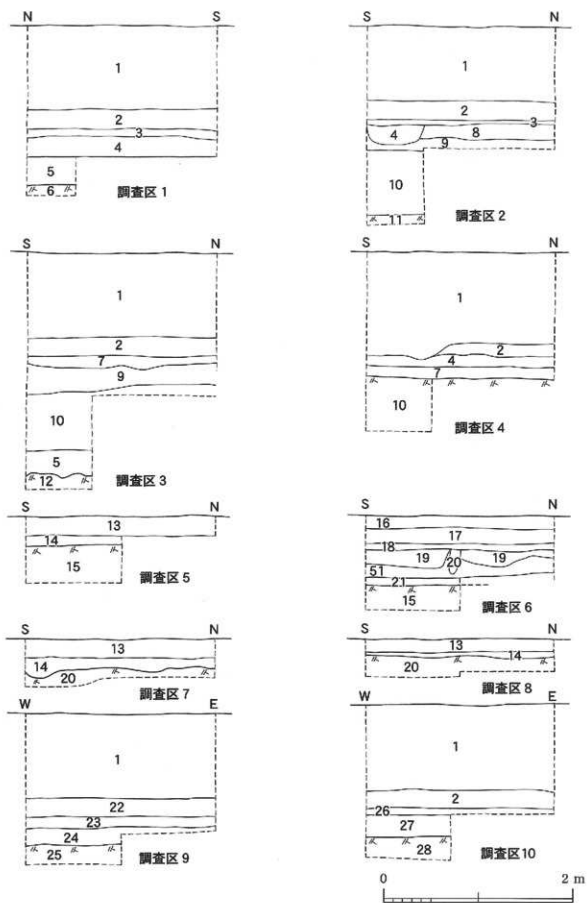


図7 土層図

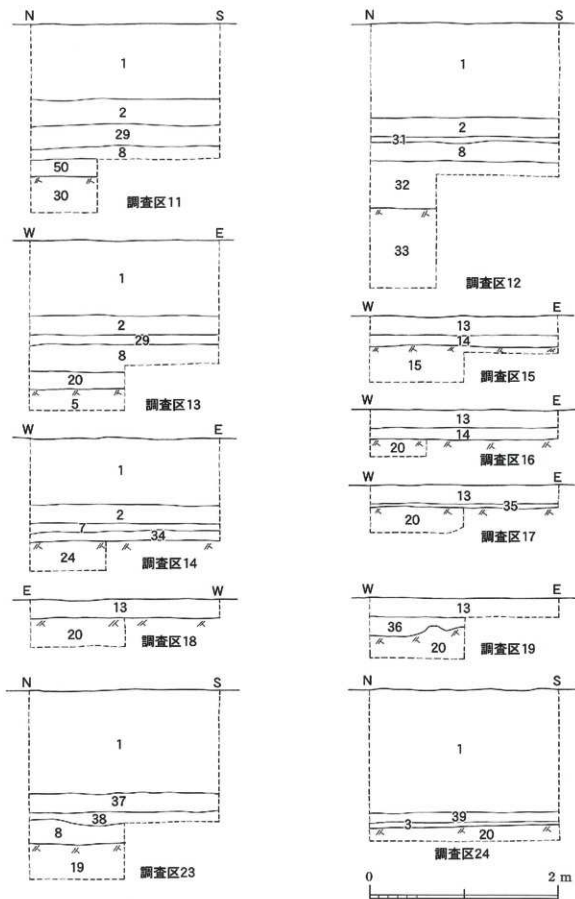


図8 土層図

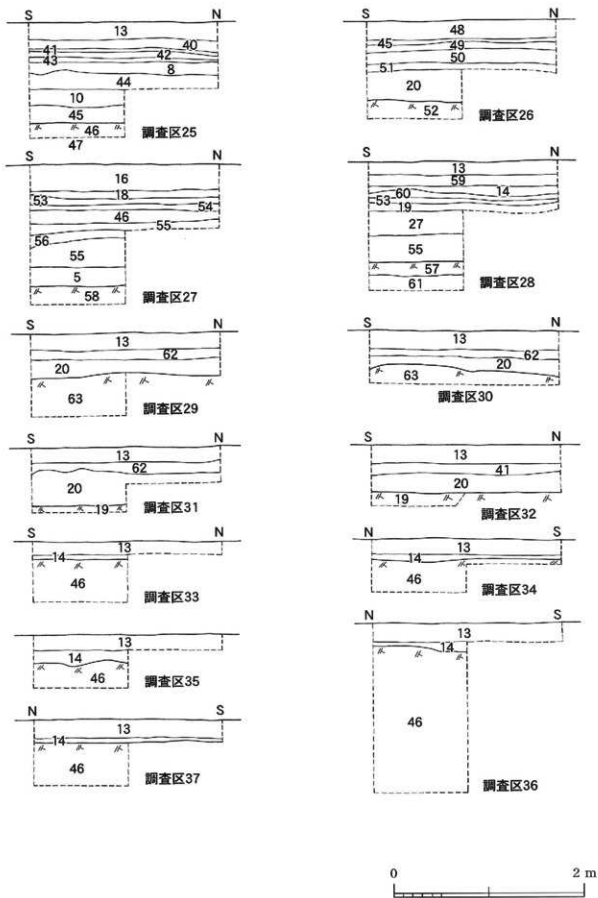


図9 土層図

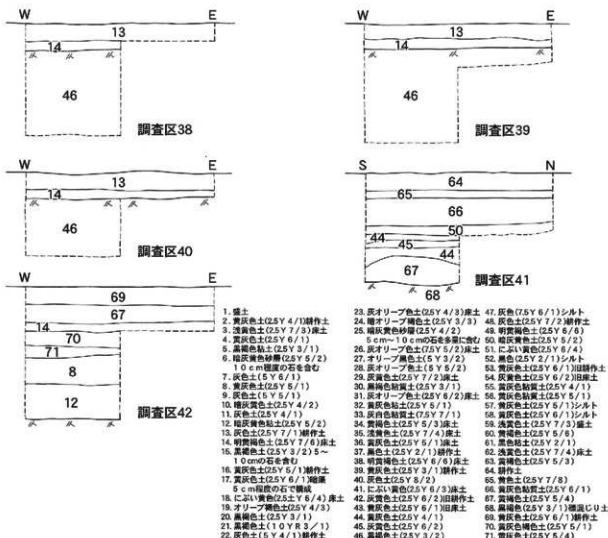


図10 土層図

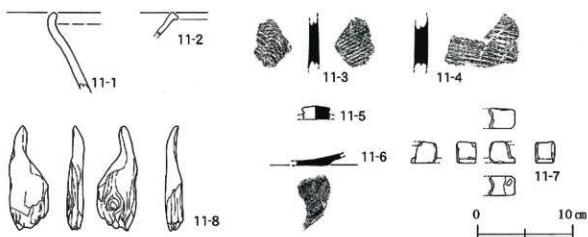


図11 出土遺物実測図

表1 出土遺物観察表

番号	調査区	種別	器種	法量 (cm)		形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	高さ			
11-1	29	弥生土器	釜		残18.5		砂礫多く含む	普通
11-2	31	土師器	蓋		残12.5		細かい砂粒含む	良好
11-3	35~19付近	須恵器	壺		残6.4	同心円文印奇	砂粒含む	良好
11-4	26	須恵器	壺		残5.5	印奇	砂粒含む	良好
11-5	5~8付近	須恵器	釜		残1.4		細かい砂粒含む	良好
11-6	25	須恵器	山茶碗		残1.2		砂粒多く含む	良好
11-7	6~8付近	須恵器	不明		2.2		細かい砂粒含む	良好
11-8	13	木片			11.1×4.3	炭化部あり		

3 福井谷遺跡 (第3次)

調査地区 神崎郡福崎町八千穂字福井谷
1462番地
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 上野健一郎 出田 直
調査期間 平成24年8月30日(木)

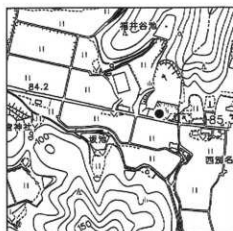


図12 調査場所位置図

○調査に至る経緯

携帯電話の基地局新設工事の計画があり、福井谷遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区の現況は、山の斜面を耕作地(畑地)として利用している。

調査区は、基地局設置箇所1か所を設定した。耕作土等の掘り下げ、精査等は人力により対応した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、行政区でいう加西市と隣接する場所にあたる。地形区分上は福住層がみられる超丹波帯とよばれる堆積があることで知られる場所で、高倉山に連なる尾根の一端である。

福井谷遺跡には、奈良時代の土器や鵜尾を焼いていたことで知られる福井谷窯跡や鵜尾を棺に利用していた埴ヶ塚古墓が存在し、周囲には窯焼きや土器作り工人在りと考えられる文治遺跡や文治口遺跡が存在する。東接する加西市においても、窯跡が確認されており、この周辺一帯が窯業生産遺跡の密集する地域と位置付けられる。

○調査区の概要

調査区は、調査対象地において土置き場の関係から南の崖面から2m北、西の崖面から1m東に入ったところに1か所を設定した。

調査区1

耕作土、橙色土層、地山からなる。橙色土層は整地の際のものと考えられる。地山はにぶい赤色土層で味噌岩状である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

○まとめ

周辺の遺跡の状況等から、関連する遺構ならびに遺物の出土も想定されたが、遺物、遺構ともに確認されなかった。周辺には、窯関連の遺跡が多く存在することから、今後、注意が必要である。今回の調査地点は、福井谷遺跡の範囲の中でも遺構や遺物の密度が希薄な場所であるといえ、工事にあたっては慎重工事で対応した。

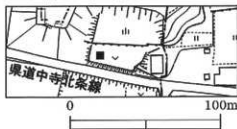


図13 調査区配置図



図14 土層図

平成25年度

4 南田原条里遺構 (第21次)

調査地区 神崎郡福岡町南田原字ハツグロ

2970番地1

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 樋口 碧 出田 直

調査期間 平成25年8月5日(月)、6日(火)



図15 調査場所位置図

○調査に至る経緯

店舗新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、休耕田であった。調査区は、店舗が建築される部分に1か所、駐車場にあたる部分に2か所の計3か所設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面に位置付けられる。当遺構は、条里という性格以外にも、第10次調査では、弥生土器片や石包丁等、中世の遺物も少量みられ、弥生時代中期の溝状遺構も確認されている。

○調査区の概要

調査区1

耕作土、床土、黒色土層(遺物包含層)、礫層からなる。溝状遺構が1条確認され、弥生時代後期の弥生土器が出土した。深さは約10cmであり、上面は現在の耕作面で削平されている。

調査区2

耕作土、床土、黒色土層(遺物包含層)、礫層からなる。柱穴2基が確認された。そのうち1つには柱根がのこっていたが、遺物が確認されなかったため、時期は不明である。

調査区3

耕作土、床土、黒褐色土層、黒色土層、礫層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

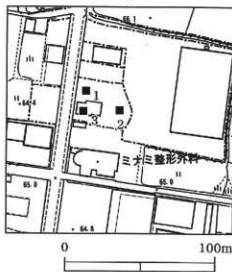


図16 調査区配置図

○まとめ

今回の調査で、調査区1から溝状遺構が1条、調査区2から柱穴2基が確認された。遺物についても溝状遺構からほぼ完形の弥生時代のミニチュア土器、弥生時代後期の壺型土器片が出土しており、弥生時代後期の集落の存在が示唆されるものであった。

これまで南田原条里遺構の東側からは顕著な遺構が確認されていなかったが、今回の調査で弥生時代の遺構の存在が確認できた。この遺構は低位段丘上である東側へ広がる可能性がある。

工事にあたっては、申請建物の下からは遺構が確認されなかったため、調査対象とはならないが、駐車場にあたる部分では、地表面から約30cmで遺構面に達するため、造成前の表土巻き取りの際

には慎重工事で対応し、工事により影響を受ける可能性が高いため、調査区1周辺の側溝埋設時には、工事立会に対応した。

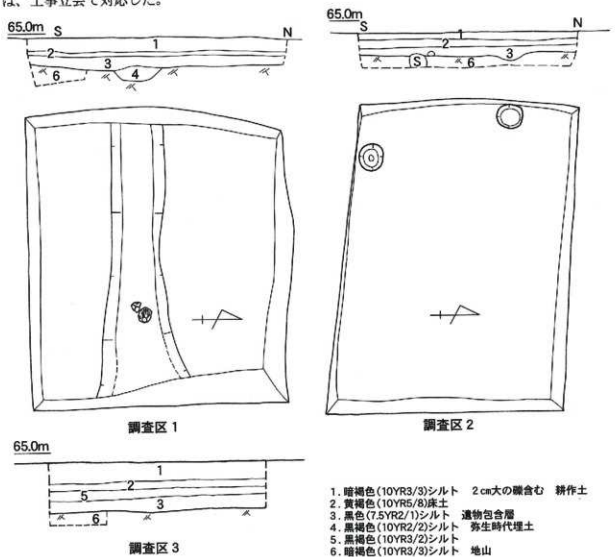


図17 土層図

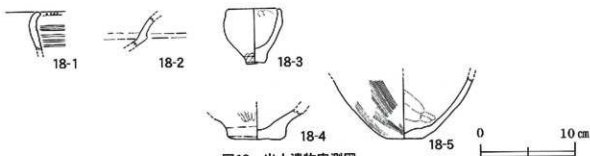


図18 出土遺物実測図

表2 出土遺物観察表

番号	調査区	種別	器種	法量 (cm)		形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	器高			
18-1	1	発生土器	甕	残4.05		ヘラ指沈線文、刻み目	砂粒多く含む	普通
18-2	1	発生土器	高杯	残3.3		ヘラミガキ	粗良	良好
18-3	1	発生土器	小壺	5.5	5.9 2.1		粗かい砂粒多く含む	普通
18-4	1	発生土器	壺	残3.2	8.2	ヘラミガキ	砂粒多く含む	良好
18-5	1	発生土器	甕	残6.6	3.6	ヘラミガキ ハケメ	粗かい砂粒多く含む	良好

5 西田原辻ノ前遺跡（第2次）

調査地区 神崎郡福崎町西田原字辻ノ前

1629番地5ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧 出田 直

調査期間 平成25年8月6日（火）、8日（木）



図19 調査場所位置図

○調査に至る経緯

宅地造成工事の計画があり、西田原辻ノ前遺跡に一部含まれることから、確認調査を行った。また、遺構の広がりを確認するため、協力を得て、試掘調査も行った。

○調査方法

調査対象地区は、休耕田であった。調査区は、水道管等の掘削が行われる道路予定地の部分を中心に5か所設けた。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面に位置付けられる。

周知の遺跡としては、南田原条里遺構が南方にあり、西方には中世が中心となる南田原桶川遺跡が、北西には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られている。平成20年度の調査で当遺跡からはピット状遺構が確認され、中世の須恵器が出土している。東方には西田原上野田遺跡、西田原前田遺跡が知られており、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。これらは流れ込みによるものと考えられ、近くに同時代の遺構の存在を示唆している。

○調査区の概要

調査区1

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、褐色土層、黒褐色土層からなる。床土から須恵器片、土師器片が少量出土した。地表面から約1m掘り下げたところで水が湧き出したため、地山まで至らずに、安全確保のため掘削を中止した。

調査区2

耕作土、床土、にぶい黄褐色土層、灰黄褐色土層、褐色土層からなる。地表面から約80cm掘り下げたところで水が湧き出したため、地山まで至らずに、安全確保のため掘削を中止した。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。

調査区3

耕作土、床土、にぶい黄褐色土層からなる。にぶい黄褐色土層まで掘り下げた時点で地山と判断し、精査を行ったが遺構は確認されなかったため、掘削を中止した。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。

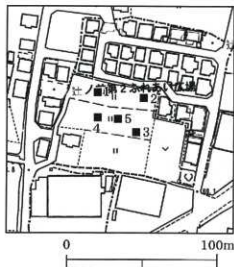


図20 調査区配置図

調査区4

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、にぶい黄褐色土層からなる。耕作土と旧床土を除去し、人力で精査を行ったところ、70cm大のN o.1ピット状遺構と2m大のN o.2ピット状遺構が確認された。N o.1ピット状遺構の埋土を10cm程度掘り下げたところで地山に到達した。埋土中から須恵器片と土師器片が出土した。N o.2ピット状遺構も10cm程度掘り下げたところで地山に到達した。これらの遺構が深くないことから、現代の田畑によって削平されていることがわかる。床土からは須恵器片、土師器片、陶器片が少量出土した。

調査区5

調査区5は、調査区4で確認された遺構の広がりを確認するために設定した。耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、にぶい黄褐色土層からなる。重機で旧床土まで除去し、人力により精査を行ったところ、70cm大のピット状遺構が1基確認され、土器片が少量出土した。

〇まとめ

今回の調査では、2次的な移動によるものと考えられる床土から遺物が確認され、床土の下からは遺構が確認された。遺構の時期は、調査区4のN o.1ピット状遺構から出土した須恵器から、7世紀後半のものと考えられる。調査区5のピット状遺構から出土した土器片は小片であるため、時期は特定できていない。

今回の調査で、平成20年度に確認された遺構よりも古い時代の遺構が確認された。周知の遺跡として包蔵地の範囲を拡大した。

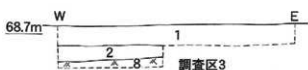
工事にあたっては、表土から30cm程度掘削すると遺構面に達することから、表土働き取りの際は慎重工事に対応し、道路下に通る水道管理設備所に、一部遺構がかかっているため、下水道管掘削時に工事立会することで対応した。



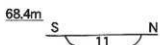
調査区1



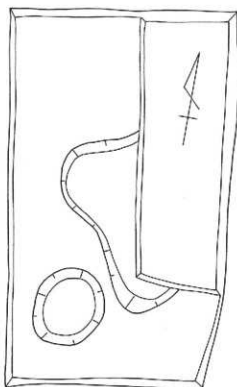
調査区2



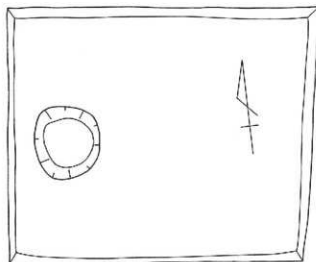
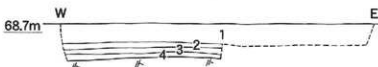
調査区3



調査区4 No.1ピット状遺構

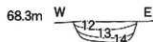


調査区4



調査区5

1. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)シルト
2cm次の礫を含む
2. 黄褐色(10Y R 5/8)シルト
3. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)シルト
5mm次の明黄褐色(10Y R 5/8)土を含む
4. 黄褐色(10Y R 5/8)シルト にぶい黄褐色
(10Y R 4/3)土を4割程度含む
5. 褐色(10Y R 4/4)シルト 粗砂と細礫を含む
6. 黒褐色(10Y R 3/2)シルト
7. 黄褐色(10Y R 3/2)シルト
8. 明褐色(7.5Y R 5/8)土を1割程度含む
9. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)シルト 細礫を含む
5mm次の黄褐色(10Y R 5/8)土を少量含む
10. 灰黄褐色(10Y R 5/2)シルト 2cm次の礫を多く含む
11. 褐色(10Y R 4/4)シルト 粗砂を多く含む
12. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 粗砂を含む
13. 黄褐色(10Y R 3/2)シルト 粗砂を含む
14. 黄褐色(10Y R 3/2)シルト 細礫を多く含む



調査区5 ピット状遺構



図21 土層図

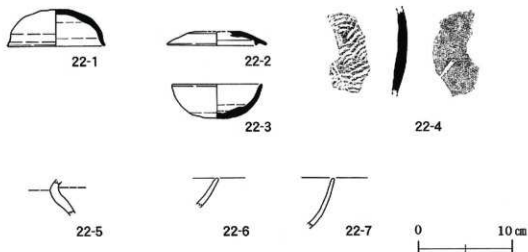


図22 出土遺物実測図

表3 出土遺物観察表

番号	調査区	種別	器種	法量 (cm)		形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	器高			
22-1	4	須恵器	皿	(10.3)	3.9		砂粒含む	良好
22-2	4	須恵器	皿	(10.6)	1.4	ヘラケズリ	精良	良好
22-3	4	須恵器	碗	(9.6)	4.6	ヘラケズリ	2mmの砂粒含む	良好
22-4	4	須恵器	碗		残8.5	同心円文印き	精良	良好
22-5	4	土師器	碗		残4.0		細かい砂粒多く含む	良好
22-6	4	曹磁	碗		残3.2		精良	良好
22-7	4	白磁	碗		残5.4		精良	良好

6 南田原条里遺構 (第22次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田

2903番地1ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧 出田 直

調査期間 平成25年11月26日(火)、28日(木)、
29日(金)



図23 調査場所位置図

○調査に至る経緯

店舗新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、休耕田であった。調査区は、駐車場予定地に9か所、店舗建設予定地に8か所、看板設置予定地に1か所を設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる部分にある。平成20年度の第10次調査では、弥生時代中期前半の福崎町でも最古の弥生集落の存在が確認されている。

○調査区の概要

調査区1

耕作土、床土、暗褐色土層からなる。重機を用いて耕作土、床土を除去したところ、暗褐色土層からピット状遺構が5基確認された。ピット状遺構の埋土からは遺物が確認されなかったため、時期は不明である。床土から須恵器片と土師器片が少量出土した。

調査区2

耕作土、床土、暗褐色土層からなる。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区3

耕作土、床土、暗褐色土層からなる。床土を除去した時点で、ピット状遺構1基が確認された。ピット状遺構の埋土を掘り下げたところ、柱根および根石と考えられる15cm程度の円礫が確認された。ピット状遺構からは土師器片、須恵器片がみつかったが、小片のため、時期は不明である。床土から須恵器片が出土した。

調査区4

耕作土、床土、褐色土層、にぶい黄褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区5

耕作土、床土、褐色土層からなる。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

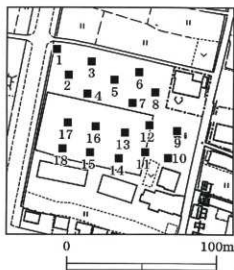


図24 調査区配置図

調査区6

耕作土、床土、褐色土層からなる。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区7

耕作土、床土、褐色土層からなる。床土から須恵器片、土師器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区8

耕作土、床土、にぶい黄褐色土層からなる。にぶい黄褐色土層から溝状遺構が1条確認された。埋土からは須恵器片、土師器片が出土した。また、埋土に多くの炭を含んでいた。遺構の上面は現在の耕作土によって削平されていた。

調査区9

既造成地で、造成土、耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、暗褐色土層からなる。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区10

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、暗褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区11

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、黒褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区12

既造成地で、造成土、床土、オリーブ褐色土層からなる。床土から須恵器片、土師器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区13

耕作土、床土、褐色土層からなる。重機を用いて耕作土、床土を除去したところ、褐色土層から溝状遺構が確認された。壁面で確認したところ、深さが約10cmであり、上面は現在の耕作土によって削平されていた。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。

調査区14

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、褐色土層からなる。遺物は床土から須恵器片が少量出土した。

調査区15

耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区16

耕作土、床土、褐色土層からなる。重機を用いて耕作土、床土を除去し、掘り下げたところ、褐色土層から直径約10cmのピット状遺構が2基確認された。遺物は出土しなかったため、時期は不明である。上面は現在の耕作土によって削平されていた。

調査区17

耕作土、床土、褐色土層からなる。重機を用いて耕作土、床土を除去し、掘り下げたところ、褐色土層から直径約20cmのピット状遺構が1基確認された。遺物は出土しなかったため、時期は不明である。上面は現在の耕作土によって削平されていた。

調査区18

耕作土、床土、暗褐色土層、褐色土層からなる。床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

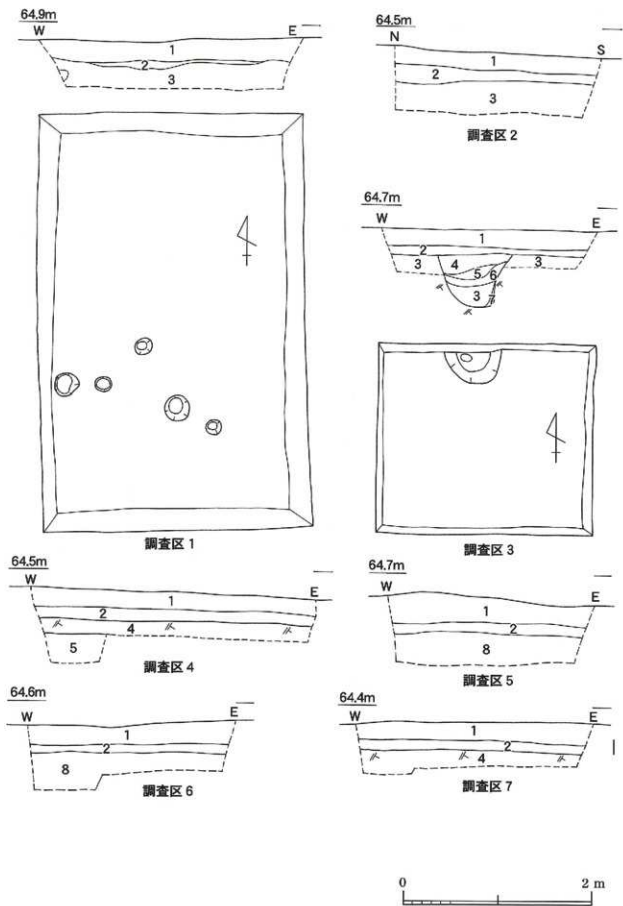


図25 土層図

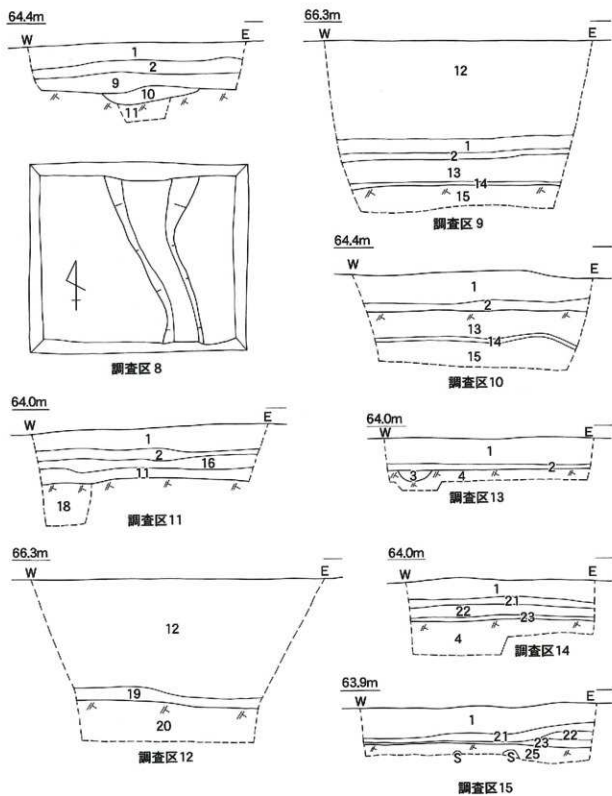
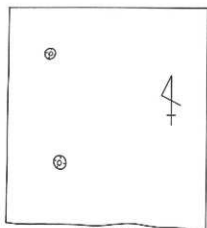
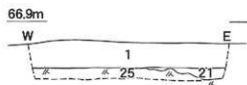
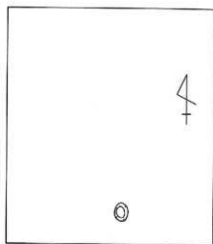


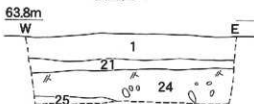
図26 土層図



調査区16



調査区17



調査区18

1. 黒褐色(2.5Y R 3/2)シルト 耕作土
2. 黄褐色(10Y R 5/6)シルト 床土
3. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト
4. 褐色(10Y R 4/4)砂層
5. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)シルト 粗砂を含む
6. 暗褐色(10Y R 3/4)シルト
7. 褐色(10Y R 4/4) 暗褐色(10Y R 3/3)土混じる
8. 褐色(10Y R 4/6)砂層
9. にぶい黄褐色(10Y R 5/6)シルト マンガンを含む
10. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 1cm次の炭を含む
11. 黒褐色(10Y R 3/2)シルト 黄褐色(10Y R 5/8)土を4割程度までに含む
12. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 造成土
13. 暗灰黄褐色(2.5Y R 4/2)シルト
14. オリーブ褐色(2.5Y R 4/6)シルト
15. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 黄褐色(10Y R 5/8)土を4割程度含む
16. 黒褐色(2.5Y R 3/2)シルト 黄褐色(10Y R 5/8)土を1、2割程度含む
17. 黒褐色(2.5Y R 3/2)シルト 黄褐色(10Y R 5/8)土を4割程度含む
18. 黒褐色(2.5Y R 3/2)シルト 黄褐色(10Y R 5/8)土、暗褐色(10Y R 3/3)土をまじらに含む
19. 灰オリーブ(5Y 4/2)シルト 床土
20. オリーブ褐色(2.5Y R 4/3)シルト 粗砂、炭、礫を含む
21. 灰黄褐色(10Y R 5/2)シルト 粗砂を含む 床土
22. にぶい黄褐色(10Y R 5/4)シルト 床土
23. 褐色(10Y R 4/6)シルト 粗砂を多く含む
24. 暗褐色(10Y R 3/4)シルト 礫を含む
25. 褐色(10Y R 4/4)砂層 礫を含む

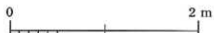


図27 土層図

〇まとめ

今回の調査では、2次的な移動によるものと考えられる床土から遺物が確認され、床土の下からは溝状遺構やピット遺構が確認された。今回の調査地点より南に位置する平成24年度実施の第17次調査箇所では、遺物包含層が確認されたものの、遺構は確認されていない。今回の調査地区は北へいくにつれて標高が上がるとともに、遺構数が多くなっている状況であるため、遺構は遺跡の北側に広がっている可能性がある。唯一遺物を含んでいた調査区8の溝状遺構は、出土した土器から奈良時代のものであることが分かった。奈良時代の遺構は、本遺跡内で初めて発見されたものであり、高位氾濫原における今後の調査においても、新たな遺構の発見が期待される。

工事にあたっては、建物の基礎を据える際に、コラム工法を用いた地盤改良が行われる予定であったため、本調査を実施し、記録保存を行った。

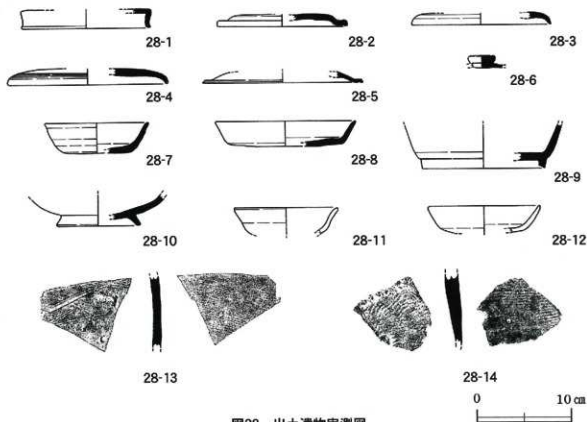


図28 出土遺物実測図

表4 出土遺物観察表

番号	調査区	種別	器種	法量 (cm)			形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	高さ	底径			
28-1	8	須恵器	甕	(13.6)	残2.0		ヘラケズリ	精良	良好
28-2	8	須恵器	甕	(13.8)	残1.3		ヘラケズリ	2mmの砂粒含む	良好
28-3	12	須恵器	甕	(17.0)	残1.1			精良	良好
28-4	2	須恵器	甕	(14.8)	残1.25		ヘラケズリ	精良	良好
28-5	8	須恵器	甕	(17.0)	残1.7		ヘラケズリ	少量の砂粒含む	良好
28-6	5	須恵器	甕		残1.3			精良	良好
28-7	12	須恵器	坪	(11.0)	3.2	(7.2)		細かい砂粒多く含む	普通
28-8	8	須恵器	坪	(14.8)	2.7	(12.4)		細かい砂粒多く含む	良好
28-9	5	須恵器	坪		残4.6	(13.0)		精良	良好
28-10	8	須恵器	皿		残3.3	(14.0)		砂粒多く含む	良好
28-11	8	土師器	皿	(11.0)	残2.8			砂粒含む	普通
28-12	8	土師器	皿	(11.8)	残2.9			少量の砂粒含む	普通
28-13	8	須恵器	甕		残7.6		ハケメ	精良	良好
28-14	7	須恵器	甕		残7.7		同心円文直書 平行明垂	2mmの砂粒含む	良好

7 南田原桶川遺跡 (第5次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字桶川

3144番地1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧 出田 直

調査期間 平成26年1月16日(木)

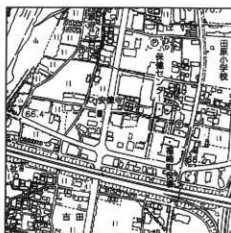


図29 調査場所位置図

○調査に至る経緯

店舗看板設置工事の計画があり、南田原桶川遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、既造成地であった。調査区は、店舗看板設置場所に1か所設けた。造成土等は重機で掘削し、壁面は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

南田原桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、近くに安徳寺や桶川の泉が存在する。今回の調査区より北東側に位置する平成10年度の第1次調査では、遺物包含層と溝状遺構やピット状遺構が確認されており、主に、旧石器時代、弥生時代、中世(12~15世紀代)の遺物が少量みつまっている。また、東に位置する平成23年度の第3次調査では、遺構は確認されていないが、近世の遺物が少量みつっており、南に位置する平成24年度の第4次調査では遺物、遺構ともに確認されていないが、遺構の端部を示すと考えられる土層の堆積が確認された。

その他、近くには南田原奈糸遺構があり、今回の遺跡よりやや南側に位置する。この遺構の北側で実施した、平成25年度の第22、23次調査において、奈良時代の溝状遺構が確認されており、さらに北側へ遺構が展開していく可能性を示唆しているものであった。

○調査区の概要

調査区1

既造成地で、造成土、地山からなる。遺物、遺構ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査で、造成土下に旧耕作土の堆積等の確認が期待できたが、造成土の下は地山であったため、当地点では旧耕作土を地山まで掘き取った後に、盛土が施されていると考えられた。遺物の出土もなく、工事には支障がない状況といえ、慎重工事で対応した。

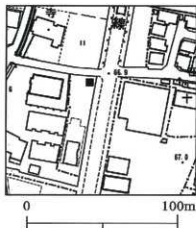


図30 調査区配置図



図31 土層図

8 福田地区(東田黒)

調査地区 福崎町福田字東田黒153番地ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成26年1月16日(木)、17日(金)

○調査に至る経緯

造成工事の計画があり、工事予定箇所の地表面に土器の散布がみられたため、協力を得て試掘調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、休耕田であった。調査区は、駐車場予定地に6か所設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面は人力により精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸の低位氾濫原に位置する。すぐ北に位置する福田東田黒遺跡では、平成19年度の試掘調査で、氾濫原内の微高地において中世の遺構の広がりが確認された。また、低い部分では拳大から人頭大の河原石が堆積していたため、氾濫原の一部と判断した。

他に周辺に顕著な遺構は知られていないが、福田東田黒遺跡より北側には、古墳時代後期の大塚古墳、北西には古墳時代の散布地として知られる清水遺跡が存在する。また、西方の福田集落には近世の固奉倉があり、町指定文化財となっている。解体修理時に、奈良時代から平安時代に属する瓦の出土があり、字名が無量寺ということから古代寺院の存在を示唆している。

○調査区の概要

基本的に耕作土、砂層からなる。

調査区1

耕作土から土器片が少量出土した。地表面から約110cm下の砂層中から溝状の凹みが確認されたが、自然流路と考えられる。

調査区2

耕作土、砂層上層から土器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区3

耕作土から土器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区4

耕作土から土器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区5

耕作土から土器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区6

耕作土から土器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。



図32 調査場所位置図

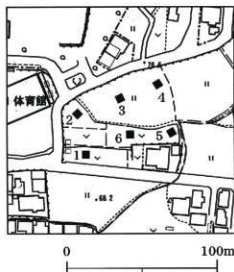


図33 調査区配置図

○まとめ

今回の調査では、耕作土、砂層の上層から2次的な移動のものと考えられる遺物がみつかった。耕作土の下は砂層となっており、下層にいくにつれて土層中に含む円礫が大きくなっていることから、当調査地点は旧河道、あるいは氾濫原であり、遺構の存在するような微高地はないと考えられる。

今回の調査地点より北側に位置する福田東田黒遺跡では、中世の土器片を伴う溝状遺構やピット状遺構が確認されており、当調査地点からみつかった土器片はこの遺跡からの流れ込みによるものと考えられる。今回みつかった土器片はいずれも小片のため、時期は不明である。

今回の調査と平成19年度実施の福田東田黒遺跡試掘調査の結果から、遺構は調査地点よりも北側に広がるものと考えられ、今後の調査で遺構の全容が明らかになることを期待する。工事にあたっては、慎重工事に対応した。

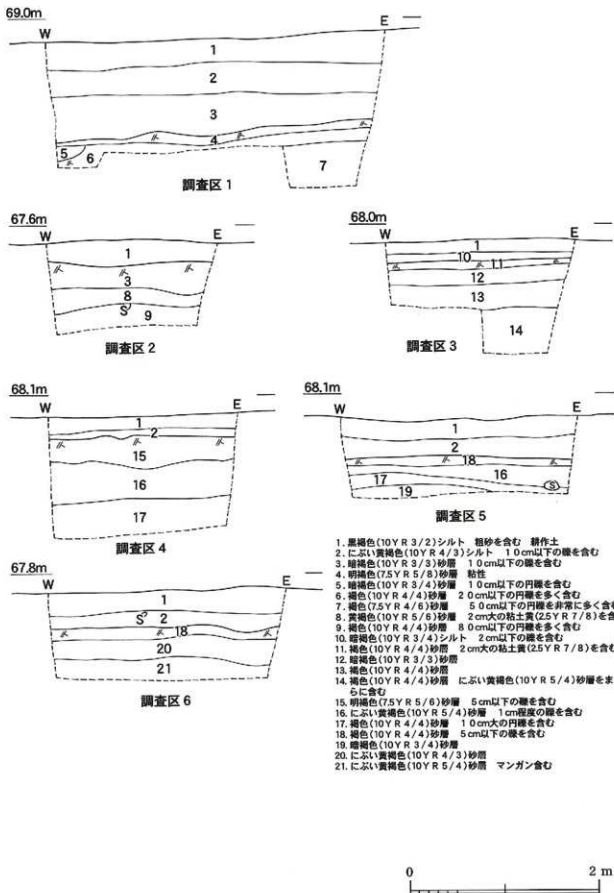


図34 土層図

平成26年度

9 西広畑遺跡 (第3次)

調査地区 神崎郡福岡町西原原西広畑669番地5

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成26年4月3日(木)

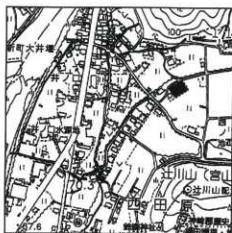


図35 調査場所位置図

○調査に至る経緯

個人住宅建設工事の計画があり、西広畑遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、既造成地であった。調査区は、1か所設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

地形区分上は、段丘面に位置し、西には市川に流れ込む谷川が隣接する。南東方向に、辻川山(宮山)として知られる、標高約120mの山がある。

この山の周辺には遺跡が顕著にみられ、古くは宮山遺跡、北広岡遺跡等、弥生時代の遺跡が広がる場所があることが知られていた。また、平成6年度のほ場整備に伴う調査では、弥生時代中期の集落である上大明寺遺跡や今回の遺跡の範囲である西広畑遺跡の存在が確認された。

西広畑遺跡は、古墳時代後期にも集落が形成されていたことが分かっており、東に位置する東新田古墳や東広畑古墳との関係性が考えられる。

平成17年度の第2次調査では、ビット状遺構が2基確認されているが遺物が伴わないため、時期は不明である。遺物包含層からは、土師器片や須恵器片等が確認されている。

○調査区の概要

調査区1

造成土、旧耕作土、遺物包含層、地山からなる。遺物は旧耕作土と遺物包含層から須恵器片と土師器片が見つかった。

○まとめ

平成17年度の確認調査の結果から、溝状遺構が北へ広がっていると考えられたが、今回の調査では、遺構の存在を確認することができなかった。遺物包含層が見つまっているものの、遺物の量から遺構密度は希薄であると考えられ、工事に支障がない状況といえるので、慎重工事で対応した。

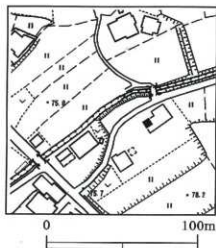


図36 調査区配置図



図37 土層図

10 南田原条里遺構（第24次）

調査地区 神崎郡福岡町南田原字中島762番地1ほか

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成26年6月17日（火）、19日（木）、
20日（金）

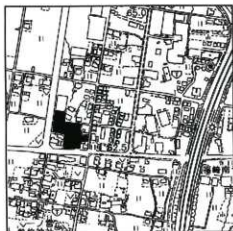


図38 調査場所位置図

○調査に至る経緯

店舗新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、宅地であった。調査区は、駐車場予定地に9か所、店舗建設予定地に6か所を設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面および遺構は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地区は、市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる部分にある。

当遺構は、条里という性格以外にも、平成20年度の第10次調査では、弥生土器片や石包丁等、中世の遺物も少量みられ、弥生時代中期の溝状遺構も確認されている。

○調査区の概要

調査区1

表土、旧耕作土、造成土からなる。オリーブ褐色土層に達したところで、柱穴1基と溝状遺構1条が確認された。遺物が確認されなかったため、時期等は不明である。

調査区2

表土、造成土、旧耕作土、床土からなる。床土の下は砂層であり、氾濫原と考えられる。この砂層を50cm程度掘り下げたが土層に変化がみられなかったため、地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区3

耕作土、造成土、床土、旧耕作土、床土からなる。床土を除去した時点で、溝状遺構1条を確認した。遺物が確認されなかったため、時期等は不明である。

調査区4

造成土、礫層からなる。約1m掘り下げても礫層が続くため、遺構はないと判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区5

表土、旧耕作土からなる。約1.1m掘り下げても礫を含む層が続くため、地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区6

造成土、旧耕作土からなる。砂層に達したところで地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

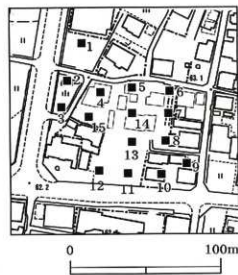


図39 調査区配置図

調査区7

表土、造成土、旧耕作土からなる。砂層に達したところで地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区8

表土、造成土からなる。表土下から黒色土の掘り込みが確認された。埋土を取り除いたが遺物が出土しなかったため、時期は不明である。造成土を掘り込んでいるため、近代のものと考えられる。

調査区9

表土、耕作土、旧耕作土からなる。砂層に達したところで地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区10

造成土、床土、旧耕作土からなる。砂層に達したところで地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区11

表土、床土からなる。床土の下は20cm大の円礫を多く含む層であり、その下に遺構はないと判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区12

表土、床土、旧耕作土からなる。砂層に達したところで地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区13

耕作土、床土、造成土からなる。造成土の下は砂質で円礫を含む層であったため、地山と判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区14

表土、造成土からなる。造成土の下は大きさ20cm以上の円礫を多く含む層であり、約1m掘り下げたが層に変化がなかったため、遺構はないと判断し、掘削を停止した。遺物、遺構ともに確認されなかった。

調査区15

耕作土、旧耕作土、黒褐色土層からなる。遺物、遺構ともに確認されなかったが、黒褐色土層の存在から、平成20年度の第10次調査で確認された遺構の一部である可能性が考えられる。

○まとめ

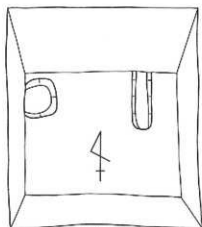
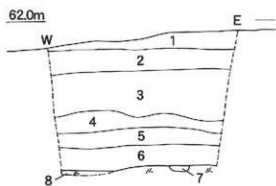
今回の調査では、調査地点の北西部の調査区1から柱穴が1基と溝状遺構が1条みつかり、南西部の調査区3から溝状遺構が1条みつかり。第10次調査では弥生時代の溝状遺構が確認されており、当調査地点に広がる可能性も考えられたが、遺構には遺物が伴わなかったため、時期等は不明である。調査区15の黒褐色土層の存在から、溝状遺構の広がりには調査区15付近を東限としていると考えられる。

今回の調査で確認された調査区1の柱穴は、過去の調査事例にあるように、微高地上に存在するものと考えられる。しかし、調査地点北側で行った第17次調査地点では、明確な遺構がみつからないことから、遺構の希薄な地点であるということが分かる。

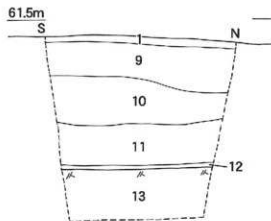
工事にあたって、調査区8は建物の基礎となる部分であるが、近代のものである可能性が高く、工事に問題はないと考える。その他の建物建設予定地の調査区からも、遺物包含層等は確認されていない。

調査区1、3は駐車場予定地で擁壁工事のため掘削を伴うが、遺構面まで掘削が及ばないため、

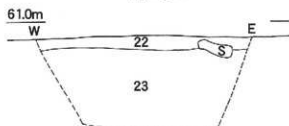
慎重工事で対応した。また、調査区15から黒褐色土層が確認されており、南側に遺構が存在する可能性を示唆しているが、この部分についても工事により黒褐色土層まで掘削が及ばないため、慎重工事で対応した。



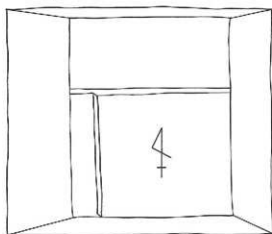
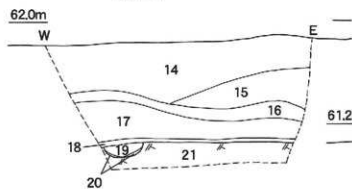
調査区 1



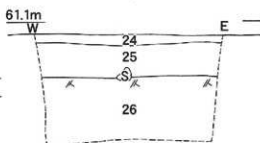
調査区 2



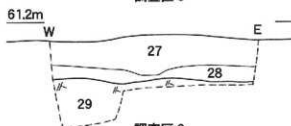
調査区 4



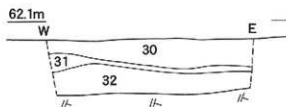
調査区 3



調査区 5



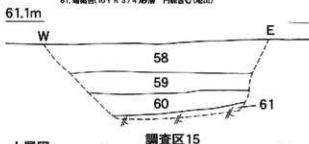
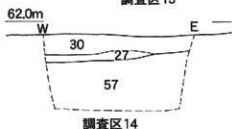
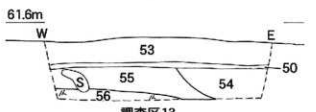
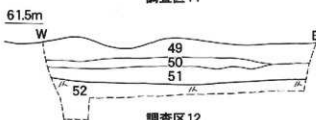
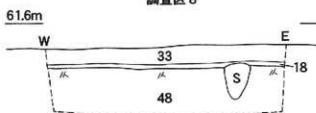
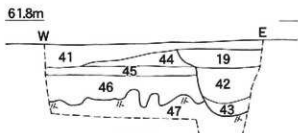
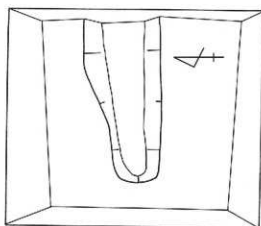
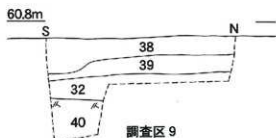
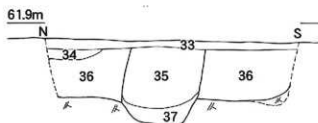
調査区 6



調査区 7

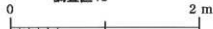


図40 土層図



1. 暗褐色(10Y R 6/6)シルト 粗砂、腐葉を多く含む(黄土)
2. 暗褐色(10R 3/3)シルト 腐葉を含む(団粒作土)
3. 褐色(10Y R 4/4)シルト 腐葉(75Y R 6/6)プロックを含む(造成土)
4. 黄褐色(2.5Y 3/2)シルト 腐葉を少し含む(造成土)
5. 灰黄褐色(10Y R 5/2)シルト 褐色(10Y R 4/6)土を40%含む(造成土)
6. 暗褐色(2.5Y 4/2)シルト(団粒土)
7. 暗オリーブ褐色(2.5Y 3/3)シルト 腐葉を多く含む(黄土)
8. オリーブ褐色(2.5Y 4/2)シルト(団粒土)
9. 灰黄色(10Y R 5/4)シルト 腐葉を含む(造成土)
10. 暗褐色(2.5Y 3/4)シルト 粗砂、腐葉を含む(団粒土)
11. 暗褐色(10Y R 2/2)シルト 粗砂、腐葉を含む(団粒作土)
12. オリーブ褐色(2.5Y 4/4)シルト(団粒土)
13. 暗褐色(10Y R 3/3)粘層(団粒)
14. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 腐葉を含む(団粒作土)
15. 灰黄褐色(5Y R 5/6)シルト 腐葉を含む(造成土)
16. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 腐葉を含む(黄土)
17. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 腐葉を含む(団粒作土)
18. 暗褐色(10Y R 4/6)シルト(団粒土)
19. 暗褐色(10Y R 2/3)シルト(団粒土)
20. 暗褐色(10Y R 4/3)シルト 腐葉を含む(黄土)
21. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)粘層(団粒)
22. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 土器片含む、プロックまじり(造成土)
23. 暗褐色(10Y R 3/4)シルト 腐葉(10Y R 6/6)腐葉を含む 腐葉多く含む
24. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)(団粒)
25. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 腐葉を含む(団粒作土)
26. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)粘層 内層を含む(団粒)
27. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)シルト 腐葉を含む(造成土)
28. 暗褐色(2.5Y R 3/2)シルト(団粒)
29. 暗褐色(10Y R 3/4)粘層(団粒)
30. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 腐葉を含む(黄土)
31. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)シルト 腐葉、黄褐色(10Y R 5/6)土を含む(造成土)
32. 黄褐色(10Y R 2/3)シルト(団粒作土)
33. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト(団粒土)
34. 黄褐色(10Y R 3/2)シルト(造成土)
35. 黄土(10Y R 7/3)シルト(団粒)
36. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)粘層
37. 黄褐色(10Y R 3/3)シルト 内層を含む(造成土)
38. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)粘層
39. 暗褐色(10Y R 3/2)シルト 灰を含む(団粒作土)
40. 黄土(10Y R 4/4)粘層(団粒)
41. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト(造成土)
42. 黄土(10Y R 4/4)シルト 内層を含む(黄土)
43. 暗褐色(10Y R 6/6)シルト(団粒)
44. 暗褐色(10Y R 3/4)シルト 腐葉を含む(造成土)
45. 濃い黄褐色(10Y R 4/3)シルト 腐葉(10Y R 6/6)腐葉を含む、土器片含む(黄土)
46. 暗褐色(2.5Y R 4/3)シルト粘層
47. 暗褐色(10Y R 2/2)シルト 腐葉多い(団粒)
48. 暗褐色(10Y R 3/2)シルト(団粒土)
49. 黄土(10Y R 6/6)シルト(団粒)
50. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト(団粒作土)
51. 黄褐色(10Y R 6/6)シルト(団粒作土)
52. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト(団粒)
53. 暗褐色(10Y R 3/2)粘層 内層を含む(造成土)
54. 暗褐色(10Y R 3/2)粘層 内層を含む(造成土)
55. 暗褐色(10Y R 4/4)粘層(団粒)
56. 黄土(10Y R 4/4)粘層(団粒)
57. 黄土(2.5Y R 4/4)シルト 砂を多く含む 内層を含む(団粒)
58. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 土器片含む、土器片を含む 腐葉を含む(団粒作土)
59. 暗褐色(10Y R 2/2)シルト 10土を上部にまじらに含む(団粒作土)
60. 暗褐色(10Y R 2/2)シルト 内層を含む(団粒)
61. 暗褐色(10Y R 3/4)粘層 内層を含む(団粒)

図41 土層図



11 県指定文化財 石造五重塔基壇部下調査

調査地区 神崎郡福崎町西田原字小谷752番地

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成26年9月9日(火)、10日(水)

○調査に至る経緯

県指定文化財 石造五重塔が菩提樹等の根によって持ち上げられて傾いていたため、平成26年度の文化財保存整備費等補助事業として、平成26年8月7日から保存修理工事が実施された。

本塔は、所有者である神積寺の開祖である慶芳上人の墓であると伝えられている。本塔を傾ける原因となっている木の根を取り除き、基礎を据え直す作業が必要であることを県教育委員会に報告したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないものの、基壇部下の遺構を確認するための調査を行うよう指示を受けたため、解体後、試掘調査を行った。

○調査方法

今回の調査は、工事によって掘削される範囲に限定した。基壇部下の石畳を撤去し、記録写真撮影、図面作成を適宜行いながら掘り下げ、基壇部下の遺構の確認を行った。

○調査区の概要

調査区1

礫(玉砂利)層、暗褐色土層(近世以降の流土)、褐色土層(塚の盛土)、暗褐色土層(層塔建立以前の造成土)からなる。

基壇部を外したところ、玉砂利が敷かれており、その中に中世のものと考えられる土師器片が1点混じっていた。土層を確認しながら掘り下げを行うため、北半分の玉砂利および石畳を撤去した。菩提樹の根により、土層の堆積状態を確認することは困難であった。30cm程度掘り下げたところ、石畳はなくなり、土層の変化がみられた。石畳は30cm大の角礫が3段程度で構成されていたと考えられるが、盛土の際に版築等が行われていた痕跡はなく、しまりは弱かった。

石畳上段を取り外す最中に、暗褐色土層から寛永通宝や近世以降の陶器片が出土した。これらは、後世の人々が供えたものが石畳の隙間に混入したものと考えられる。石畳下段からは、土器片等の遺物は確認されなかった。

石畳下の土層の変化がみられたところから、さらに20cm程度掘り下げたが、顕著な遺構は確認されず、工事に影響する範囲の調査が終了したため、掘削を停止した。

なお、玉砂利の範囲から50cm程度南西に外れた位置から、中世のものと考えられる須恵器片が確認されているが、根によって移動したものであり、本塔建立時に伴うものかは不明である。

○まとめ

今回の調査では、五重塔建立年代の手がかりとなるような成果は得られなかった。菩提樹等の根による擾乱のため、土層の堆積状況も不明確であったが、しまりが弱く、本塔建立時に地盤がたたきしめられていなかったといえる。



図42 調査場所位置図

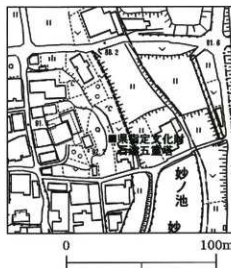


図43 調査区配置図

今回の調査から、保存修理工事に伴う掘削により、基壇部下の文化財が破壊されないと判断できたため、町の文化財担当職員の立会いのもと、工事を進めることで対応した。

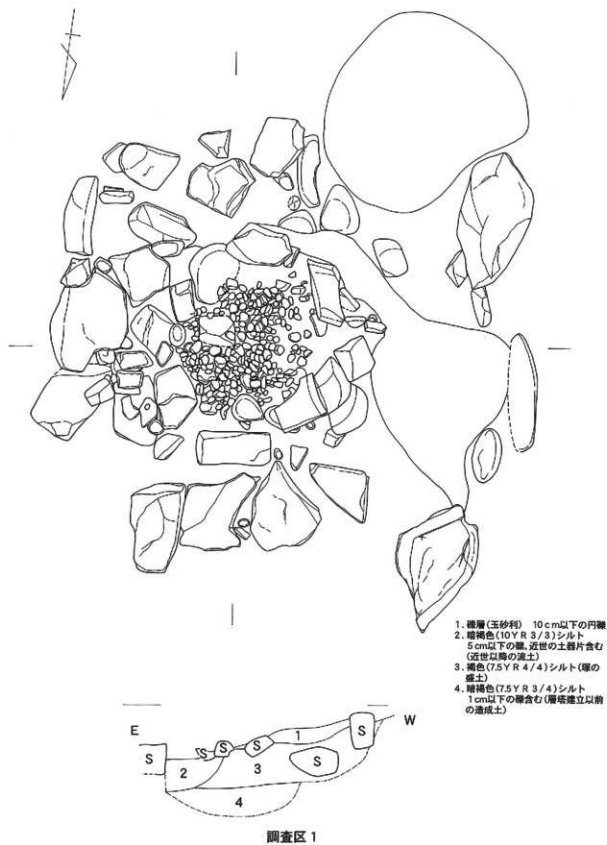
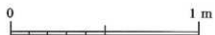


図44 平面図・土層図



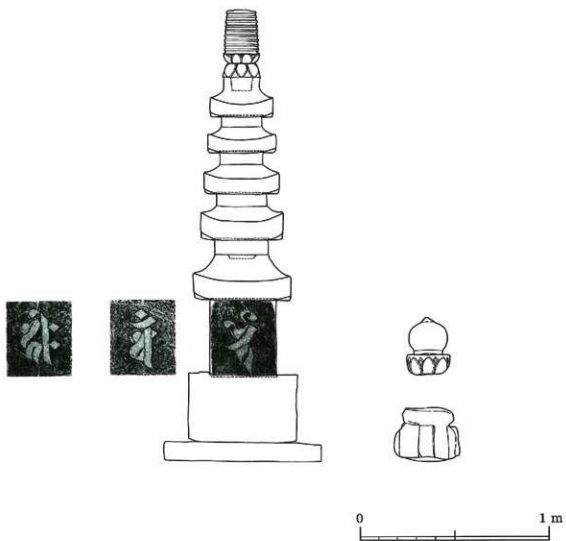


图45 石造五重塔 实测图

12 南田原条里遺構（第25次）

調査地区 神崎郡福崎町南田原字東田2223番地1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成26年10月8日（水）

○調査に至る経緯

宅地造成工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査方法

調査対象地区は、休耕田であった。調査区は、4か所設定した。耕作土等は重機で掘削し、壁面は人力で精査した。記録写真撮影、図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる部分にある。

平成25年度に実施した当該地の200m北に位置する第21次調査では、弥生時代の溝状遺構が確認され、西側に遺構が展開する可能性が示された。

○調査区の概要

調査区1

耕作土、床土、旧耕作土からなる。床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区2

耕作土、床土、旧耕作土からなる。床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区3

耕作土、床土、旧耕作土からなる。床土から須恵器片と土師器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

調査区4

耕作土、床土、旧耕作土からなる。床土から須恵器片が少量出土した。遺構は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、2次的な移動によるものと考えられる床土からの遺物が確認されたが、遺構は確認されなかった。床土の下は市川の氾濫により堆積した砂層であり、遺物を含む土層は確認できなかった。当該地区では、市川の氾濫による堆積層の直上に、耕作土が盛られたものと考えられる。平成25年度に今回の調査地点の北西部で第20次調査を行っているが、遺構は確認されていない。当該地点周辺は、遺構が希薄な部分であると考えられる。

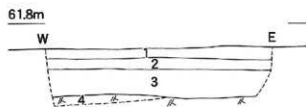
工事にあたっては、慎重工事に対応した。



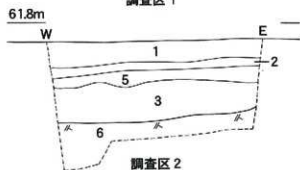
図46 調査場所位置図



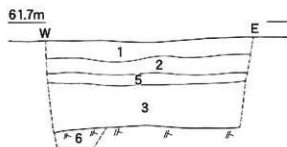
図47 調査区配置図



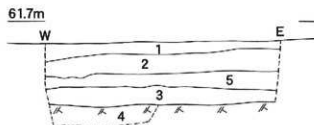
調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4

1. 暗褐色(10Y R 3/3)シルト 耕作土
2. 黄褐色(2.5Y R 5/4)シルト 床土
3. 黒褐色(01Y R 2/2)シルト
明褐色(7.5Y R 5/6)土を少し含む 旧耕作土
4. 黒褐色(10Y R 3/2)砂層 地山
5. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)シルト
黄褐色(10Y R 5/6)をまだらに含む(旧耕作土)
6. にぶい黄褐色(10Y R 4/3)砂層(地山)

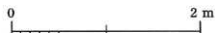


図48 土層図

写真図版

平成24年度
南田原条里遺構（第17次）



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



作業風景



調査区1 遺物出土状況



調査区6 遺物出土状況



調査区1（東から）



調査区6（東から）

南田原条里遺構（第18次）



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



作業風景



調査区1（西から）



調査区2（東から）



調査区3（東から）



調査区4（東から）



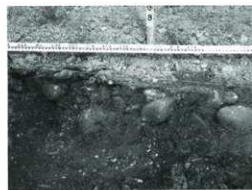
調査区 5 (東から)



調査区 6 (東から)



調査区 7 (東から)



調査区 8 (東から)



調査区 9 (南から)



調査区 10 (南から)



調査区 11 (西から)



調査区 12 (西から)



調査区 13 (南から)



調査区 14 (南から)



調査区 15 (南から)



調査区 16 (南から)



調査区 17 (南から)



調査区 18 (南から)



調査区 19 (南から)



調査区 23 (西から)



調査区 24 (西から)



調査区 25 (東から)



調査区 26 (東から)



調査区 27 (東から)



調査区 28 (東から)



調査区 29 (東から)



調査区 29 遺物出土状況



調査区 30 (東から)



調査区 31 (東から)



調査区 32 (東から)



調査区 33 (西から)



調査区 34 (西から)



調査区 35 (西から)



調査区 36 (西から)



調査区 37 (西から)



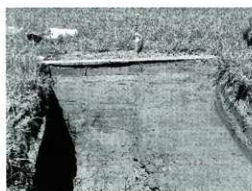
調査区 38 (南から)



調査区 39 (南から)



調査区 40 (南から)



調査区 41 (東から)



調査区 42 (東から)



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況

福井谷遺跡（第3次）



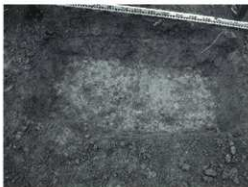
調査前の状況



調査前の状況



調査区1（北から）



調査区1



埋め戻し後

平成25年度

南田原条里遺構（第21次）



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



作業風景



調査区1 遺構検出状況（東から）



調査区1 遺物出土状況



調査区1 遺物出土状況



調査区1 遺構検出状況（西から）



調査区1（東から）



調査区2 遺物出土状況



調査区2 遺構完掘状況（東から）



調査区3（東から）



埋め戻し作業



出土遺物

西田原辻ノ前遺跡（第2次）



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



調査区1（南から）



調査区2（南から）



調査区3（南から）



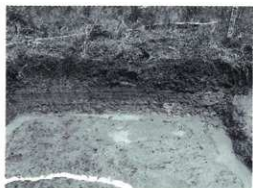
調査区4 遺構検出状況（南から）



調査区4 (南から)



調査区5 遺構完掘状況 (南から)



調査区5 (南から)



作業風景



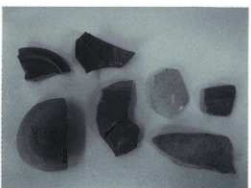
埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



埋め戻し後の状況



出土遺物

南田原条里遺構（第22次）



調査前の状況



作業風景



調査区1（南から）



調査区1 遺構完掘状況（東から）



調査区2（西から）



調査区3（南から）



調査区3 作業風景



調査区3 遺物出土状況（南から）



調査区3 遺構完掘状況 (南から)



調査区3 (南から)



調査区4 (南から)



調査区5 (南から)



調査区6 (南から)



調査区7 (南から)



調査区8 遺構検出状況 (南から)



調査区 8 (南から)



調査区 9 (南から)



調査区 10 (南から)



調査区 11 (南から)



調査区 12 (南から)



調査区 13 (南から)



調査区 14 (南から)



調査区 15 (南から)



調査区16 (南から)



調査区16 遺構完掘状況 (西から)



調査区17 (西から)



調査区17 遺構完掘状況 (南西から)



調査区18 (北から)



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



出土遺物

南田原桶川遺跡（第5次）



調査前の状況



作業風景



作業風景



調査区1（南から）



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況

福田地区（東田黒）



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



調査区1（南から）



調査区2（南から）



作業風景



調査区3 (南から)



調査区4 (南から)



調査区5 (南から)



調査区6 (南から)



作業風景



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



埋め戻し後の状況

平成26年度
西広畑遺跡（第3次）



作業風景



作業風景



調査区1（東から）



埋め戻し作業

南田原条里遺構（第24次）



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



調査区1 遺構検出状況（南から）



調査区1 遺構完掘状況（南から）



調査区2（東から）



調査区3 (南から)



調査区3 遺構検出状況 (南から)



調査区3 遺構完掘状況 (南から)



作業風景



調査区4 (南から)



調査区5 (南から)



調査区6 (南から)



調査区7 (南から)



調査区8 (西から)



調査区8 遺構完掘状況 (西から)



作業風景



調査区9 (西から)



調査区10 (南から)



調査区11 (南から)



調査区12 (南から)



調査区13 (南から)



調査区 14 (南から)



調査区 15 (南から)



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



埋め戻し後の状況



埋め戻し後の状況

県指定文化財 石造五重塔基壇部下調査



調査前の状況



玉砂利北半分除去後状況（東から）



掘り下げ状況（東から）



掘り下げ状況（断面）（北から）



玉砂利南半分除去後状況（東から）



石畳南半分除去後状況（東から）



遺物出土状況



石畳除去後状況（東から）

南田原条里遺構（第25次）



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



調査区1（南から）



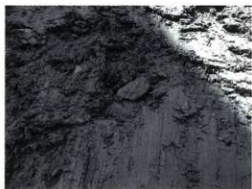
作業風景



調査区2（南から）



調査区3（南から）



調査区4 床土からの遺物出土状況



調査区4 (南から)



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



埋め戻し後の状況

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちようさほうこくしよ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	平成24・25・26年度発掘調査報告
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財調査報告14
シリーズ番号	14
編著者名	樋口 碧 出田 直
編集機関	福岡町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1 TEL0790-22-0560
発行年月日	2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積	要 因
		市町村	遺跡番号					
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第17次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざやし 52 ばんち 字岸ノ上225番地1ほか	28443	410046	34度 56分 38秒	134度 45分 29秒	2012年 6月30日～ 7月8日	40㎡	確認
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第18次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざかし ばんち 字川田2928番地1ほか	28443	410046	34度 56分 46秒	134度 45分 33秒	2012年 8月17日～ 8月24日	156㎡	確認
ふくい だに いせき 福井谷遺跡 跡 (第3次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町八千種 あまふいだに ばんち 字福井谷1462番地	28443	410062	34度 55分 44秒	134度 47分 30秒	2012年 8月30日	1.2㎡	確認
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第21次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざ ばんち 字ハツグロ2970番地1	28443	410046	34度 56分 47秒	134度 45分 36秒	2013年 8月5日、 6日	18㎡	確認
にし かわ だに いせき 西田原辻ノ前遺跡 跡 (第2次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町西田原 あざつじのまえ ばんち 字辻ノ前1629番地5ほか	28443	410136	34度 57分 05秒	134度 45分 42秒	2013年 8月6日、 8日	30㎡	試掘確認
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第22次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざかし ばんち 字川田2903番地1ほか	28443	410046	34度 56分 50秒	134度 45分 28秒	2013年 11月26日、 28日、29日	72㎡	確認
みなと わらじりり いこう 南田原種川遺跡 跡 (第5次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざしんがわ ばんち 字種川3144番地1	28443	410131	34度 57分 38秒	134度 45分 35秒	2014年 1月16日	9㎡	確認
ふくだ ちく 福田地区 跡 (東田黒)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町福田 あざふくた ばんち 字東田黒153番地ほか	28443	410134	34度 57分 40秒	134度 45分 21秒	2014年 1月16日、 17日	24㎡	試掘
にし かわ だに いせき 西 広 畑 遺 跡 跡 (第3次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町西田原 あざひろのたに ばんち 字西広畑669番地5	28443	410084	34度 57分 40秒	134度 45分 52秒	2014年 4月3日	2.2㎡	確認
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第24次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざなかの ばんち 字中島762番地1ほか	28443	410046	34度 56分 34秒	134度 45分 27秒	2014年 6月17日、 19日、20日	60㎡	確認
せき づつ ごじゆめい 石造五重塔	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町西田原 あざごじゆめい ばんち 字小谷752番地	28443	-	34度 57分 30秒	134度 46分 86秒	2014年 9月9日、 10日	1㎡	試掘
みなと わらじりり いこう 南田原桑里遺構 跡 (第25次)	かんざきふんかざいちようさほうこくしよ 神崎郡福岡町南田原 あざつじのまえ ばんち 字東田2223番地1	28443	410046	34度 56分 39秒	134度 45分 33秒	2014年 10月8日	16㎡	確認

2016年3月31日 印刷

2016年3月31日 発行

埋蔵文化財調査報告書
平成24・25・26年度発掘調査報告
福崎町埋蔵文化財調査報告14

著作権 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1

発行者 福崎町教育委員会

印刷者 クリヤ印刷所



